

4月24日に投開票された日立市議会議員選挙で、公明党公認の5候補は、全員当選を果たしました。皆さまの温かいご支援に心から感謝申し上げます。今後ともご指導、ご鞭撻の程よろしくお願ひいたします。

# 激戦突破し5候補完勝



公明党候補の得票結果

<b>当選</b>	5位	助川 吉洋	3,169票
<b>当選</b>	14位	館野 清道	2,479票
<b>当選</b>	10位	薄井 五月	2,718票
<b>当選</b>	17位	添田 絹代	2,342票
<b>当選</b>	7位	三代 勝也	2,948票

特別区議選に一六九人、町村議選に一七九人（推薦を含む）、合計一二六九人の候補者を公認しました。公認候補全員が当選を果たす快挙を成し遂げました。

公明党候補は告示以来、一票にしのぎを削る大接戦を開催しました。「公明党は安泰、大丈夫」などと言つて公明支持票の切り崩しを狙う他党・他陣営の攻勢がし烈を極め、公明党候補は、全く予断を許さない緊迫した選挙戦を余儀なくされました。必勝への執念みなぎる党員、支持者の皆さまの最終盤の大攻勢によつて、劣勢をはね返し、完勝を果たすことをが出来ました。安心・安全の街・日立をつくるため全

四月二四日、統一地方選挙の後半戦が投開票を迎えました。日立市の助川吉洋・館野清道・薄井五月・三代勝也の五名の党公認候補は、激戦を見事に突破し、全員当選いたしました。

公明党は、第十七回統一地方選挙の後半戦である一般市議選に九一五人、東京

公明党は、安泰、大丈夫などと言つて公明支持票の切り崩しを狙う他党・他陣営の攻勢がし烈を極め、公明党候補は、全く予断を許さない緊迫した選挙戦を余儀なくされました。必勝への執念みなぎる党員、支持者の皆さまの最終盤の大攻勢によつて、劣勢をはね返し、完勝を果たすことをが出来ました。安心・安全の街・日立をつくるため全

# 日立復興のために 全力投球を誓う

近な地域の政治の担い手を決める選挙です。国難とも言うべき未曾有の大震災と闘う中で、住民のそ

また、東日本大震災の被災地でもある日立市では、震災復旧の最前線を一步も引かず、必死の戦いを展開しました。統一地方選は、身

の執念みなぎる党員、支持者の皆さまの最後盤の大攻勢によつて、劣勢をはね返し、完勝を果たすことをが出来ました。安心・安全の街・日立をつくるため全

近な地域の政治の担い手を決める選挙です。国難とも言うべき未曾有の大震災と闘う中で、住民のそ

また、東日本大震災の被災地でもある日立市では、震災復旧の最前線を一步も引かず、必死の戦いを展開しました。統一地方選は、身

# 山口代表が日立で 統一選の第一声

**原発の安全総点検を、目に余る震災対応  
菅政権に厳しく物申す。**

4月17日、山口那津男代表は、JR常陸多賀駅前で、日立市議選に挑む5候補について「国難とも言うべき大震災を力を合わせて乗り切る地域の推進力になり得る候補であり、何としても勝たせていただきたい」と訴えました。

山口代表は、今回の統一地方選を、「地震、津波、原発事故の複合的被害を乗り越えていくためには、どの政党、候補者が地域の安全と安心をつくり出すことができるかが問われる選挙」と指摘。その上で、震災と原発事故の対応で、自らの被災を顧みずに対策に当たる公明議員の奮闘と、全国に張り巡らされた公明党の地方議員と国会議員のネットワークと「チーム

力」が生かされていることを紹介し、「住民に寄り添い、

声を聞いて、確実に必要な政策をやり抜くのは公明党しかない」と力説しました。

また、原発施設の冷却で活躍中の「生コン圧送機」の情報が真っ先に公明党に寄せられたことについて、「大事な情報が寄せられたのは、仕事は公明党に頼めば一番早く実現すると国民から思われているからだ」と強調しました。

さらに、公明党が学校耐震化やドクターへリの配備を推進してき



たことに触れ、「公明党のやってきたことは間違いなかった。これからも安全・安心の街づくりに万全を期していく」と述べました。

一方、民主党政権に対しては、「あまりにも取り組みが後手に回り、住民の皆さんに不安を与えていた」と批判。被災者や原発事故の避難者への配慮を欠いた軽率な言動が相次いでいるとして「でたらめな政権の在り方には厳しくものを言っていく」と語りました。

## ◎防災行政無線の戸別受信機を市内全域に配備すること

- ・今回の震災では津波被害を最小限に抑えるために、防災行政無線が大きな効力を発揮しました。
- ・十王地区を含む市内全域に戸別受信機を配備するには、あと3年間掛かる計画です。計画を見直し、一刻も早く全世帯に戸別受信機を配備するよう強く要望しました。
- ・南部地域に配備されている旧型の戸別受信機を、AM・FMラジオやLEDライトが付いた多機能型戸別受信機に、早急に更新することも求めました。

## ◎放射線量を日立市のインターネットや防災無線で広く広報すること

- ・東電福島第一原子力発電所の放射線漏洩事故で、市民には強い不安感があります。
- ・日立市内では、久慈中学校と大沼小学校の2箇所に測定器が設置されており、10分ごとの放射性物質量（空間線量）が公表されています。
- ・しかし、簡単に市民がこの情報を得ることは困難であり、日立市のホームページのトップページに掲載したり、防災無線で毎日放送するなど、分かりやすく広報することを求めました。

## ◎使いやすい飲料水用タンク（10リッター）を全戸配布すること

- ・今回の震災で一番苦労したのが飲料水の確保でした。
- ・折りたたみ式やリュック式など、使いやすい飲料水用タンクを備蓄し、災害時には、必要な市民に配布できるような体制を作成するよう要望しました。

**公明党市議団が緊急要望**  
3月15日、公明党市議団は日立市長に  
3項目の震災対策に関する緊急要望を行いました。